第26回「野生生物と社会」学会 岐阜大会　公開シンポジウム

社会と経済を支える生態系
～ 生物多様性をめぐる科学と政策 ～

新型コロナウイルス感染症のパンデミックから、健全な生態系は私達が健康に生きるための土台であり社会と経済を支えているという考え方が注目されています。さらにポストコロナ時代を見据えて、SDGs（持続可能な開発目標）が目指す経済・社会・環境のバランスがとれた世界の実現に成長の機会を見出そうという動きも見られます。

シンポジウムでは、生物多様性をめぐる科学と政策について、多様な立場からの取り組みをご紹介いただき、社会と経済を支える生態系について考えたいと思います。

©Akiko SUDO

開催日時：2021 年 11 月 6 日（土）14:30～17:30

開催方法：オンライン開催（Zoom）　後日、Youtubeで見逃し配信を視聴できます

参加費　：無料（どなたでも参加できます）

詳細および参加申し込みは、第26回「野生生物と社会」学会 岐阜大会webサイト（https://www1.gifu-u.ac.jp/~rcwm/symposium.html）を御覧ください

【基調講演】

松田裕之（横浜国立大学環境情報研究院 教授）

「人と野生生物の利用しあう関係」

【パネリスト】

牧野厚史（熊本大学大学院人文社会科学研究部 教授／環境社会学会 会長）

藤掛雅洋（岐阜県環境生活部環境企画課 生物多様性企画監）

鈴木正嗣（岐阜大学応用生物科学部 教授／「野生生物と社会」学会 会長）

【コーディネーター】

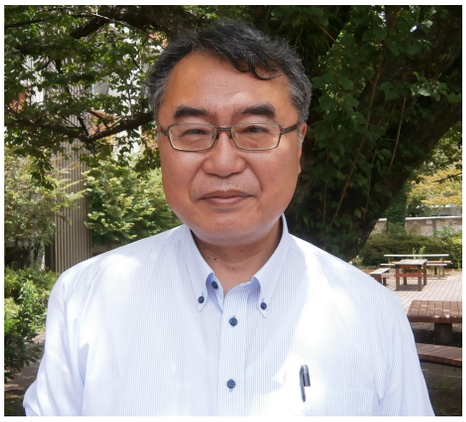
須藤明子（株式会社イーグレット・オフィス 専務取締役／日本イヌワシ研究会 会長）

※発表における著作権への配慮のため、発表内容の撮影・録画・ダウンロード等は禁止します

お問い合わせ／ beans@eaglet-office.co.jp（担当　吉田）

松田裕之　横浜国立大学環境情報研究院 教授

福岡県生まれ。京都大学理学部卒業、同大学院生物物理学専攻修了。2003年から現職。日本の維管束植物レッドリストに使われた絶滅リスク評価法を開発、日本で初めての順応的野生動物管理を北海道エゾシカ保護管理計画で提案した。2007年より日本人初のPew海洋保全Fellow。ヨコハマ海洋みらい都市研究会共同代表。日本MAB（人間と生物圏）計画支援委員長。著書に『死の科学』『「共生」とは何か』『環境生態学序説』『ゼロからわかる生態学』『生態リスク学入門』『なぜ生態系を守るのか』『海の保全生態学』『ユネスコエコパーク』など。
専門は生態リスク学、数理生物学、水産資源学、海洋政策学。



牧野厚史　熊本大学大学院人文社会科学研究部 教授
環境社会学会 会長

兵庫県生まれ。関西学院大学経済学部卒業。関西学院大学大学院社会学研究科社会学専攻修了。滋賀県琵琶湖博物館専門学芸員等を歴任。2011年から現職。人の活動の舞台である環境を視野に入れることで、自分たちの生きる社会を知り、社会についての新しい見方や課題の解決に向けたアイデアを考案している。著書に『鳥獣被害ー＜むらの文化＞からのアプローチ』『暮らしの視点からの地方再生』など。

藤掛雅洋　岐阜県環境生活部環境企画課 生物多様性企画監

岐阜県生まれ。東京農工大学卒業後、なぜか森林科学職員として岐阜県庁入庁。林業行政、環境行政等のセクションを歴任。
その間、郡上市、（公財）岐阜県森林公社へ出向、岐阜県立森林文化アカデミー等を経て2020年度から現職。
森のことは森の中で考えるをモットーにひたすら森を徘徊している。

鈴木正嗣　岐阜大学応用生物科学部 教授
「野生生物と社会」学会 会長

東京都生まれ。帯広畜産大学畜産学部獣医学科卒業。2007年から現職。北海道在住時（2007年まで）は、エゾシカやアザラシ類を対象に繁殖生物学的研究に従事してきた。近年は、野生動物管理学の観点から、個体群管理や感染症対策に関わる諸問題に取り組んでいる。著書に『野生動物管理のための狩猟学』『実践野生動物管理学』『野生動物の管理システム』『野生動物管理ー理論と技術ー』『STOP！鳥獣害』など。

※発表における著作権への配慮のため、発表内容の撮影・録画・ダウンロード等は禁止します
お問い合わせ／ beans@eaglet-office.co.jp（担当　吉田）